

年頭所感



全医協連

会長 小林 照尚
(こばやし てるひさ)

平成24年の初春を迎えるにあたり、会員の皆様に年始のご挨拶を申し上げます。

昨年の総会後の理事会で会長に再任されたことは、身に余る光栄であり、改めて責任の重さを痛感しております。

昨年1年間を振り返ってみますと、3月11日に発生した「東日本大震災」は想像を絶する自然災害のすごさ、恐ろしさを目の当たりにさせられたあまりにもショックな出来事でした。

今回の大震災は、地震の甚大な被害に加え、想定できないほどの大津波を引き起こしたこと、さらに福島県における原子力発電所の事故など未曾有の被害を東日本各地に与え、今後の日本経済全体に及ぼす影響は計り知れない状況にあります。

「いわて医協」、「宮城県医協」の組合員のうち、合わせて8名の先生と、ご家族2名の尊

い命が奪われましたことは、まことに遺憾であり、ここに謹んでお悔やみを申し上げます。

全医協連としては、相互扶助という協同組合の理念・精神に基づき、いち早く緊急支援対策案をまとめ、その対策の一つとして、義援金を募集し、各医協および地区連合会から多大な募金を提出していただき、被害がとりわけ大きかった「いわて医協」および「宮城県医協」に届けられたことは、皆様のご協力の賜物と心より感謝いたしております。今後、必要であれば追加の支援対策も考慮していくつもりでおります。

全医協連の今期の課題の中に、危機管理を上げています。例えば、自然現象に対する危機管理と防災対策、組合員の平均年齢の老齡化に対する危機管理、事務局における人事管理・事務処理管理などを検討していきたいと考えています。

また、課題としていた「保険業法改正による無認可共済の復活」については、保険業法が昨年11月に改正され、5月に施行されたため、休診共済事業再開の具体的検討に入っており、早期再開を目指しております。

今年全医協連創立40周年にあたります。組織も、建物同様40年、50年と経てきますと、その間に老朽化・硬直化が起こり得るものです。それを乗り越えるためには、新しいアイデア、新しい組織の変革が必要とされるといわれております。若い力、新しい力が理事として参加してくれました今期、全員の英知を集めて、新しい全医協連を目指して進んで行きたいと思っております。

新たな挑戦に対してご指導、ご協力をお願いいたします。新年のご挨拶いたします。新しい年が明るいな年でありませうように祈っております。